

サイクルツーリズムによる地域活性化 「鳥取うみなみロード」の NCR 指定に向けた取組

鳥取県 輝く鳥取創造本部 観光交流局 観光戦略課 サイクルツーリズム振興室
鳥取県 県土整備部 道路局 道路企画課

○サイクリストの聖地・鳥取県を目指して

鳥取県では、県内外のサイクリストをはじめ、インバウンドのサイクリストの皆様にも鳥取の自然を楽しんでいただけるよう、県内全域においてサイクリストの聖地化を目指し、県内どこでもサイクリングができる環境づくりを進めています。

その中でも特に、鳥取県を東西につなぐ「鳥取うみなみロード」においては、国のナショナルサイクルルート（NCR）指定を目指して走行環境や受入環境の整備を進めているところです。

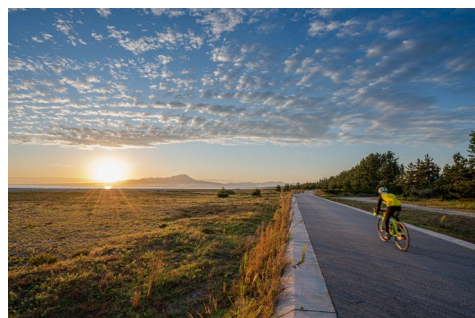
今回は、鳥取県のサイクルツーリズム推進施策や NCR 指定に向けた取組内容を紹介します。

○鳥取うみなみロードの概要

国の NCR 指定を目指している「鳥取うみなみロード」は、鳥取県内の海岸線を中心に東浜駅（岩美郡岩美町）から境港駅（境港市）まで鳥取県を横断する約 152 キロのサイクリングルートです。もともと、山陰自動車道の開通により車の通行量が減少する国道 9 号沿線の地域活性化等を図るため、県内を東西に横断するサイクリングルートとして平成 28 年度よりコース選定を進め、令和 2 年 3 月には「鳥取うみなみロード」と名称を新たにつけて、全線開通しました。

この鳥取うみなみロードは、東から岩美町、鳥取市、湯梨浜町、北栄町、琴浦町、大山町、日吉津村、米子市、境港市と 9 市町村を通過し、沿線には「浦富海岸」、「鳥取砂丘」、「鹿野城跡」、「青山剛昌ふるさと館」、「水木しげるロード」など鳥取県を代表する観光スポットや、日本海の新鮮な海の幸・山の幸、「牛骨ラーメン」などのご当地グルメのほか、さらに、鳥取温泉・はわい温泉・皆生温泉などの温泉地もあり、鳥取を味わい尽くせるサイクリングルートとなっています。

特に、米子市と境港市間の「白砂青松の弓ヶ浜サイクリングコース」は、美保湾沿いを走る風光明媚なコースで、地元の方や県内外のみならず韓国や台湾など国外からも多くのサイクリストが訪れています。



（白砂青松の弓ヶ浜サイクリングコース）



（田後漁港）



（城原海岸）

○鳥取うみなみロードの整備について

(1) 自転車走行空間の整備

令和5年2月には鳥取うみなみロードの走行環境整備や受け入れ環境整備を進めていくための「鳥取うみなみロード整備計画」を策定しました。鳥取うみなみロードはナショナルサイクルルート（NCR）の指定を目指していることもあり、その整備計画策定に当たってはナショナルサイクルルート制度の指定要件の評価項目・評価基準に基づくものとしています。

特に、道路管理者の立場として、走行環境の整備にあたっては「迷わず安心、安全に走行できる環境が整備されている」という考え方にに基づき、①誰もが安全・快適に走行できる環境を備えていること、②誰もが迷わず安心して走行できる環境を備えていること、を目指したものとしています。

この、鳥取うみなみロードは、自転車（歩行者）専用道路部分は全体の1割程度で、一般道が9割を占めており、サイクリストの安全性や快適性の確保のため、国、県、市町村、河川管理者などの関係者の協力により、整備計画に基づいた統一基準で自転車走行空間の整備を行いました。

1. 誰もが安全・快適に走行できる環境について

サイクリングルートの理想形は、自動車及び歩行者と自転車が分離された自転車道もしくは自転車専用通行帯ですが、鳥取県内の状況は、自動車と自転車が混在する「車道混在」の区間がルートの多数を占めていることから、鳥取うみなみロードは、河川管理道や自転車歩行者専用道と車道混在区間を組み合わせたものとなっています。

このため、自転車走行空間の確保のために、車道混在区間の全線にわたり矢羽根を設置しており、その設置間隔は郊外部では100m、都市部（DID地区）では10mを基準としました。また、交差点部においては設置間隔を5mとし、より安全性を高めるよう工夫しました。さらに、ルート上には路肩の狭いトンネルや橋梁、急勾配区間も存在していることから、サイクリストとドライバーに対する注意喚起の看板や路面標示を設置しました。

2. 誰もが迷わず安心して走行できる環境について

多様なサイクリストがルート上を迷うことなく目的地に行けるよう路面標示、案内看板を整備することとし、ルート全線にルート名、自転車ピクトによる経路・距離に関する路面標示、案内看板を設置しました。ルート案内は単路部では概ね5kmごと、分岐部では全箇所を設置しました。この路面標示等には海外のサイクリストでも認識可能となるよう多言語標記（日本語、英語、韓国語、中国語）としています。

道路における走行環境整備は概ね完了していますが、本県はほぼ全域が豪雪地帯に指定されており除雪する機会も多いことから、今後、矢羽根や路面標示の劣化も見込まれます。このため、今後も安全で快適なサイクルルートであるために適切な維持管理を行うとともに、自転車走行空間のさらなる安全性向上に努めていきたいと考えています。

今後もナショナルサイクルルート指定を目指した自転車走行空間の整備のみならず、自転車を利用しやすい環境を整備するためにも、路肩狭小部の解消や、自転車専用通行帯の整備等を進めていきたいと考えています。



(矢羽根)



(路面案内標示)



(注意喚起標識)

(2) サイクリストの受入環境の充実

受入環境整備としては、鳥取砂丘コナン空港や米子鬼太郎空港などの交通結節点において、サイクリストが到着後にそのままサイクリングを楽しめるよう、自転車の組立解体スペースの整備や更衣室の貸出、自転車のチューニングのための整備工具・空気入れの貸出などができる「ゲートウェイ整備」を実施しています。

国外や県外から来られた方が、鳥取うみなみロードを始め、県内を手軽にサイクリングできるよう、レンタサイクルの拠点整備をすすめており、県が認定したレンタサイクル施設を「コグステーション」という名称で展開をしています。また、サイクリストがサイクリング中に気軽に立ち寄れる施設として、バイクラック設置・工具や空気入れの貸出サービスなどを行う「サイクルカフェ」(飲食店)、「サイクルポート」(コンビニエンスストア)を増やすとともに、自転車を客室まで持ち込める等のサイクリスト向けサービスを行う宿泊施設を「サイクリストに優しい宿」として認定するなど、サイクリストの受入環境の充実を図ってきました。



(鳥取砂丘コナン空港)



(サイクリストに優しい宿)



(サイクルカフェ)

○サイクリストの聖地・鳥取県を目指す官民連携の取組

鳥取県のサイクルツーリズム施策で特徴的なのは、民間団体との連携、特に商工会組織との連携をしている点で、中でも、特に注力をしているのが、毎年度継続的に商工会組織と連携して実施しているサイクリングガイドの養成講座です。

鳥取県においては、人口減少の歯止めがかからず、地域の経済活動も縮小してきていることから、その対策として地域をくまなく巡り小規模な商業施設や店舗に立ち寄りやすい「自転車」に着目し、サイクル

ツーリズム推進による観光誘客をすすめ、中山間地域においても観光消費による地域活性化を目指しています。鳥取県としても、NCR 指定を目指す中で、「鳥取うみなみロード」沿線だけではなく、県内各地において地域観光ガイドもできるサイクリングガイドの人材養成をすすめることで、受入環境の充実に取り組んでいます。

継続的なサイクリングガイド養成講座の実施により、地域を案内するサイクリングガイドが徐々に育ち、サイクルツアーを実施する事業者も出てくるようになりました。

なお、令和6年度には、サイクリングガイドの育成など、サイクルツーリズムを活用して地域の活性化につなげていく取り組みが国交省からも評価され、サイクリングガイド等の実施主体である鳥取県商工会連合会西部産業支援センターのブランディングプロジェクト「大山時間」が、国の自転車活用功績者団体表彰を受賞されました。



(大山時間サイクリングガイドツアー)



(自転車活用推進功績者団体表彰授賞式)

○県内で開催されている様々なサイクリング関連イベント

鳥取県内には、小規模ではあるものの、多くのサイクリング関係イベントが開催されています。もともと、県西部の大山周辺ではサイクリングを含めたアクティビティが盛んで、「全日本皆生トライアスロン大会」のほか、皆生温泉から大山頂上を目指す「シートゥーサミット皆生大山」や大山を一周する「ツール・ド・大山大会」、米子日吉津商工会が大会運営をしている「サイクルカーニバル」などが開催されています。また、鳥取市では「鳥取すごい！ライド」やヒルクライム大会も行われています。さらにここ近年では、一日で255キロを走破する「鳥取うみなみ250」や、獲得標高が3,000mを越える過酷な「グランfond倉吉」など県中部エリアを主体とするイベント開催されるようになりました。

これらの大会はいずれも民間事業者や商工団体が企画運営し、鳥取県の雄大なフィールドを使って開催されており、県内のみならず県外から多くのサイクリストやアスリートが集まる大会に成長してきています。

このようなサイクリング等のイベント開催により、イベント中のエイドステーション（休憩スポット）での地元品飲食物の提供のほか、県外からの参加者の宿泊や飲食などにより、多くの経済効果が生まれ、地域の活性化にもつながっています。また、サイクリング等のイベント参加により鳥取県を知っていただき、ファンになってもらうことで、再来訪のきっかけにもなっています。



(鳥取すごいライド)



(ツール・ド・大山大会)

〇ますます進む、自転車と公共交通との連携

令和7年4月から、鳥取うみなみロードと並走するJR山陰本線の鳥取・米子間において、サイクルトレインの通年運行（冬季期間等は販売中止）が開始されました。土休日に1日3往復で、自転車最大積載台数は1運行辺り3～5台という小規模なものではありますが、鳥取うみなみロードの代替交通機関としての役割だけではなく、列車とサイクリングを掛け合わせた新しい旅として、駅からのサイクリング周遊に活用されています。

JR山陰本線の鳥取・米子間で運行している車両は、サイクルトレイン実施には不向きなボックス席が中心の車両構造となっていたため、自転車の車両内での固定手法や、乗降手法の検討など安全性の課題が多くありました。その課題の克服のため、令和5年度からJR西日本米子支社山陰営業部と連携しながら、実際にサイクルトレインに使う列車や各駅において、自転車を携行した乗り降りや列車内での固定手法などの実証実験を繰り返し実施し、安全性の確認を行いました。その後、令和6年度の通常ダイヤで運行する列車において期間限定で試験運行し、事故等もなく、また利用者からの満足度も高かったことから、令和7年度からの通年運行につながりました。

また、県では鉄道だけではなくバスとの連携も進めています。鳥取うみなみロードから山間部等の全県域へサイクルツーリズムを広げていくため、サイクルバスの実証実験を行っており、10月11日（土）からは大山エリアにおいて路線バスを使ったサイクルバスの実証運行が始まります。



(サイクルトレインの様子)

このように、鳥取県では自転車と公共交通の連携が進みつつあることから、今年の6月には鳥取市において「自転車と公共交通の未来シンポジウム ～ サイクルトレイン、サイクルバスフォーラム～」を開催しました。東海大学の鈴木美緒准教授に「自転車と公共交通が共生するまちづくり」と題して御講演をいただいたほか、全国からサイクルトレインやサイクルバスの先進地の事業者をお招きして事例発表していただき、先進的な取組事例や課題とその対応策の共有を図ることができました。



(シンポジウムの様子)

○鳥取うみなみロードを始めとしたサイクリングロードの更なる魅力向上を目指して

今後、鳥取うみなみロードでのサイクリングをより楽しんでもらえるよう、ロード上にモニュメントなどの設置によるフォトスポットの充実を図り、サイクリストの周遊性を高めていくほか、誰でも手軽にサイクリングを楽しめるようレンタサイクル拠点の拡大や強化を進めていきます。

是非、みなさんも、鳥取うみなみロードにお越しいただき、鳥取県内をサイクリングしてみませんか。

鳥取うみなみロード



ルート概要	鳥取県の沿岸部を東西につなぐ約 152km のサイクリングルート。沿線には、水木しげるロードや、鳥取砂丘、浦富海岸等、鳥取県を代表する観光スポットや海の幸を堪能できる飲食店、皆生温泉等の温泉等があり、鳥取県をまるごと満喫できる。
これまでの歩み	・サイクルツーリズム推進にあたり、官民連携で議論を行う場である「鳥取県サイクルツーリズム推進・連携会議」において、令和4年4月に「鳥取うみなみロード」において、ナショナルサイクルルート指定を目指すことが決定。 ・令和5年2月には、本ルートの整備計画を策定し、走行環境及び受入環境の更なる充実を図るための整備を開始。

～ 鳥取うみなみロードのNCR指定を目指しています。是非、みなさん鳥取県にサイクリングにお越しください ～